

住

愛知建設労働組合

中小零細業者の権利と 生活を守る「あいけん」

働く人を守る健康保険や年金保険の業務

愛知建設労働組合は、建設労働者の生活と権利を守り、社会保障制度の確立を目指して設立された日本建設組合連合に加盟する組合です。もともとは建設労働者で組織された組合ですが、建設産業は建設労働者の他に、職人や一人親方、中小零細建設業者が集まって構成されています。こうした人全ての経済的、社会的地位と技術の向上を図ることが大切です。そこで、愛知建設労働組合とは別法人として設立した愛知県建設産業協会、職業訓練を目的に設立した愛知県建設センターの3つの組織が一体となり「あいけん」として活動しています。

愛知建設労働組合の主な事業は建設業に従事する方のための国民健康保険や国民年金基金、労働者共済制度の業務を、愛知県建設産業協会は事業主労災保険、一人親方労災保険、雇用保険、退職金共済制度などの業務をおこなっています。

大工の大学、名古屋建築技能大学校

木の温もりや快適さが見直されています。住宅関連の仕事に就きたいと考える人もたくさんいます。



ただ住宅関連の仕事といってもさまざまです。「あいけん」の特色の一つが住宅関連



の仕事に就きたい、より高い技能や知識を身に付けたい人が建築について学べる愛知県建設センターの運営です。2級建築士や建築施工管理技士などの資格取得を目指したり、伝統の技を学べる木造建築科があり、平成20年からは社会人・大卒コース（中卒・高卒も可の大工技能養成科）も設けられました。木造建築科では道具の選び方、手入れの仕方から始まり、伝統工法による家づくりだけではなく、技能の継承にも力を入れています。

また、さまざまな社会貢献活動にも取り組み、平成18年からは木のすばらしさ、木でもものをつくることの楽しさを子どもの頃から知ってもらおうと檜の間伐材を利用して、子どもたちと一緒に机や椅子をつくり寄贈する活動を、これまで5つの小学校で実施しています。平成23年3月に発生した東日本大震災では被災した岩手県陸前高田市の気仙大工を支援するため、組合員から寄せられた大工道具や電動工具約150点を現地へ届けました。

DATA ■愛知建設労働組合

所在地：昭和三区桜山町三丁目51-2

- ・昭和38年：愛知建設労働組合発足
- ・昭和47年：職業訓練法人 愛知県建設センター・名古屋建設高等職業訓練校発足
- ・昭和59年：学校名を「名古屋建築技能大学校」と改称
- ・平成14年：名古屋城本丸御殿復元積立基金寄付開始
- ・平成18年：社会貢献事業として檜の間伐材を利用した木の児童机と椅子の寄贈活動開始
- ・平成20年：地域活動事業「冬休み親子ふれあい祭り」開始
- ・平成23年：東山動植物園への木製器具の寄贈に関する協定を締結し、一枚板ベンチを寄贈